

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4471000234 | | |
| 法人名 | 株式会社木村コーポレーション | | |
| 事業所名 | グループホーム初音の里 | | |
| 所在地 | 杵築市大字溝井向井1609 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000234&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年12月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念である「私達は入居者様とご家族が安心して生活できるような介護をしています」をモットーに認知症関連の研修には積極的に参加し常に情報を取り込むよう努力している。入居者様に対しては家庭的な雰囲気の中で自主性を尊重し、貴重な時間を大切に過ごす暮らしのパートナーとして接している。午後3時のおやつは入居者様の希望を聞き手作りを用意している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・周りは工場地帯であるものの、グループホーム自体は起伏の少ない、木立に囲まれた静かな土地に建設されており、季節の移り変わりを楽しむことができる。
 ・職員研修に力を入れて、内外の研修へ参加させている。また、職員に資格の取得を奨励している。職員間のコミュニケーションも良く図れており、職員相互の信頼関係もよい。
 ・本人本位のケアを目指し、利用者の言葉をそのまま記録した書類を作成し、検討するという取り組みも実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホール壁面や業務日誌に理念を掲示し、日々の業務の中で理念を元に取り組んでいる、新入職員には入社の際、説明を行なっている。 | 地場企業が設立したグループホームであり、地域貢献できる事業所作りに常に取り組んでいる。毎週行う会議で、理念に沿ったケアができていないか確認している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 夏祭りを実施し、地域の方にも参加してもらい交流を図っている。 | グループホームの近隣は工場などがあって民家が少ないが、工場で働く人たちとの交流を行っており、イベントに参加してもらったり、避難訓練への協力などをお願いしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域で開催される認知症の講座に参加し地域の方との意見交換の場になっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し行政、地区、家族の方に運営状況などを報告し、合わせて意見を頂いている。 | 2ヶ月に1回、家族会も兼ねて、区長、民生委員、市の担当者が参加して運営推進会議を開催している。活発な意見交換があり、事業所の運営に反映させている。記録も整備されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 困難な事例に直面した場合市役所福祉課、介護保険課に相談している。 | 市の担当者が毎回運営推進会議に出席しており、参加者とともに事業内容の改善を図っている。また、市に広報誌を届けたり、困難事例を報告するなどして、密に協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会等を通して職員の共有認識を図り生活の質の向上に取り組んでいる。 | 内部研修を月に1回行ない、身体拘束についても職員の正しい理解と共通認識を図るようにしている。日々の生活の中で気がついたことはその都度説明し、ケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会等を通して虐待防止関連法を遵守するよう共通理解を図るとともに実践するように取り組んでいる。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 機会のあるごとに職員へ説明を行なっている。家族の相談に対応することもある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項等書面をもって説明している。家族の疑問、不安には丁寧に答えるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には、手紙、訪問時に意見を頂くようにしている。 | 2ヶ月に1度、運営推進会議とともに家族会を開いており、家族から意見をもらっている。また本人の発言をそのまま記録することで、本人の真意や思いを様々な角度から推し量り、ケアに活かす努力をしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月全体会議を開き話し合いの場を設けている。 | 週1回のカンファレンス、月に1回の勉強会と全体会議で、職員の意見や要望を出して話し合い、検討している。提案を実現させた事例も多くある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得により資格給がつくようになっているが、やりがいに結びつく水準には達していない。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設外研修は、職員の経験年数などに応じた研修に参加してもらっている。施設内研修は教育委員会で計画し実施している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同市内の他施設と相互訪問し意見交換など行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | うまく自分の思いを伝えられない方もいますが傾聴共感の姿勢で丁寧に対応しています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族のこれまでの生活の様子や思いを十分に聞き支援に生かすように努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族より情報をいただき、相談しながら支援の方向を決めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 暮らしを共にするパートナーとして一緒にお茶や会話の時間を楽しんでいます。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 情報を共有し対等の立場でご本人を支えるような関係の構築に努めています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の過去の経歴や思いを尊重し関係が継続するよう配慮しています。 | 本人の希望に応じて、家族と協力しながら美容院の利用や買い物などを実施し、昔の知人に会う機会をもてることが利用者に喜ばれている。また、家族に盆や正月の帰省の受け入れを勧めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人一人の気持ちを大切にし気の合う関係が継続するように努め、孤立しないように職員が声かけし話し相手になっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の施設に移られた方には必要に応じて情報提供などし相談に乗っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個人の生活習慣、希望など聞き取り把握に努め困難な方には家族や周囲の方から情報収集に努めている。 | 日々の生活の中で本人の言葉や思いを受け止め、気づいたことは、職員間で話し合い、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人のお話を聞き家族や周囲の方から情報収集しその中から把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活習慣や会話から情報を得て現状の把握に努め主治医から情報提供をお願いしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を聞き介護計画を作成担当者会議、モニタリング、カンファレンスを行い協議している。 | 定期的なアセスメント計画、モニタリングを実施している。週に1回カンファレンスで検討し、必要に応じて介護計画の変更を行っている。家族にも相談すると共に、意向を聞いており、遠方の家族には文書のやりとりにより同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 週に1度カンファレンスを行い気づきや問題点工夫等話し合いカンファレンスノートに記録して情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 毎月活動計画を立て月に1度レクリエーションを行なっている(季節行事、外出)受診の送迎を支援している。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の民生委員、区長さんと意見交換を行っている。施設周辺の地域の方、小学校とお互いの行事を通して交流を働きかけている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望するかかりつけ医による定期的な診療が行なわれている。杵築市外の通院受診は原則家族が同行しているが出来ない場合は代行している。 | 2週間に1回、訪問診療で受診している。かかりつけ医のいる人は職員同行で受診し、遠方への受診は家族に協力をお願いしている。医師との連絡ノートをつくり、利用者の状態について職員間の情報共有を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職と常に連携が取れる状態である。入居者の日々の健康管理や状態変化に応じた支援を行なっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には本人の支援方法に関する情報を提供している。家族、担当看護師と回復状況について情報交換を行い退院支援へ結び付けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事前に本人家族と話し合いを行い重度化、終末期へに向けた方針を確認しながら取り組んでいる。 | 本人や家族には、入居時に説明し、意向を確認している。重度化した場合には、再度、家族や関係者で話し合い、方針を決めている。これまでに3名の看取りを行い、現在も終末期の方のケアを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対処方法、救命救急法等を消防署の協力を得て学習、訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て入居者と避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行なっている。地域の協力体制については運営推進会議を通して協力を呼びかけている。 | 法人全体で自主防災団を設立して、年に2回、大規模な避難訓練を行っている。事業所が地域の避難場所になっており、今までも台風の際に地域の住人を受け入れるなどして、地域との協力体制を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使いに注意して失礼のない様に声かけ、利用者の失敗などの対応に注意しながらの声かけや支援を行なっている。 | 自尊心を傷つけないよう、声かけや対応に配慮している。また職員間で気づいたことは、その都度、お互いに注意しあい、話し合いを行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の希望を聞き、出来ることは行なうように支援し、無理な時は出来るだけ話を聞いたり気分転換をするように工夫している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調やその日の気分により睡眠時間をずらしたりして眠れない方はホールでテレビを見たり職員と話したり利用者の希望を優先し支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の意見を聞きながら洋服を選んだり、髪のカット髭剃りを行なったり身だしなみの支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 湯のみ茶碗を個別で用意し好き嫌いに応じて刻みにしたりして食べるように支援している。 | できる人には後片付けや、おやつ作りを手伝ってもらっている。食事中も会話を楽しみながら食べている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量を毎日チェックシートに記録月1回の体重測定など行なって管理栄養士が個別に食事を変えて支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後歯磨きの声かけを行なっている。出来るだけ利用者に行なってもらい見守り支援をしている。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録表にて排泄、排便を記録し時間に応じて、声かけ介助にてトイレ誘導パット交換等を行なっている。 | 排泄チェック表に沿って上手にトイレ誘導をするなど、周りの人に配慮しながら行っている。自立を目指して、昼間は普通の下着にするなどの支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分チェック表を利用し水分補給を促している。ラジオ体操や、筋力トレーニングを毎日行い、散歩に積極的に誘っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個人個人の体調に応じ入浴回数を決め実施している。散髪も職員で行い髭剃り、爪きりも徹底している。 | 2日に1回入浴できるが、希望があれば毎日入浴することもできる。拒否する方にはタイミングをずらしたり、部分浴や清拭を勧めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の習慣に応じ昼食後午睡をとっている。夜眠れない方には添い寝をしたり暖かい飲み物を用意し会話をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 1週間分薬箱に入れてあり薬の変更等は、医師連絡帳に記入し申し送り簿、介護記録にて皆にわかりやすくしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 活動計画表作成の際、レクリエーション、娯楽等の気分転換を図れるものを計画に取り入れ実施している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 活動計画表を作成し季節に応じての花見、紅葉狩り等の実施又、毎週日曜日を買物の日として外出の計画を行なっている。 | 近所の劇場にお芝居を見に行ったり、季節に応じた外出や外食を行っている。日頃は近くの神社にお参りに行ったり、外に出かけない時もベランダから庭に出て散歩できるようになっている。 | |

事業者名:グループホーム初音の里

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の方にはお金を預かり事務所で管理している。外出時は自分で払えそうな人にお金を手渡すなど工夫している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時には、必要の有無を考え電話の取り次ぎしている。遠くに居る子供さんから贈り物が届いた時は本人も電話で話せる様にしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の安全性を考慮し壁に季節に応じた飾りを貼るなど工夫している。 | 共有空間に大型のソファをいくつか置き、好きな場所に座ったり、移動が自由にできる。気の合う人と談話したり、テレビを見たりして過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビの置いてるフロアにソファを置き入居者様がくつろげる場所を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様に必要な衣装ケース、家具、イス、テーブルなどは持ち込んでもらっている。家族からのハガキ、イベント時の写真を貼るなど工夫している。 | 自室がわかるよう、飾り付けや名前を書いて入り口の工夫をしている。室内は本人の好むものや家族の写真、手紙を貼り、個々に合わせた居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | カレンダーの工夫、何月何日何曜日かわかるようにしている。又、決まった人に毎日暦を巻くってもらうようにしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4471000234 | | |
| 法人名 | 株式会社木村コーポレーション ユニット2 | | |
| 事業所名 | グループホーム初音の里 | | |
| 所在地 | 杵築市大字溝井向井1609 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年3月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4471000234&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年12月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちはグループホームの理念である「入居者様とご家族様が安心して生活できるような介護」と各種研修会に参加し研修参加者による伝達講習を随時取り入れることで専門的知識と認識を持ち、入居者様と寄り添えることが出来る介護を実践しています。また、各種行事に参加することで地域交流も盛んに行っています。直近では他施設の盆踊りに参加させていただき、自施設での納涼祭や勉強会においては他施設からの入居者様や職員のお招きもしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| | |
|-----------|--|
| 1ユニット目に記載 | |
|-----------|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 業務日誌およびホールに私達の理念を掲示し、常に念頭に置き日々実践、日々努力を重ね意識高揚につなげている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 「おせつたい」への参加や納涼祭の参加、他施設での盆踊りの参加など積極的に地域交流をしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自施設に講師を招き認知症の勉強会を行ったり他施設研修に行ったりして知識の向上に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の会議を通じてご家族や区長、民生委員、市役所の方の意見を十分に聞き質の向上に努めている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当の方々に情報を伝えたりまた逆に意見や情報をもらったりと協力関係の構築に努めている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「ロックをかけていませんか？」を合言葉に共有認識の向上を図っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法律の内容をよく理解し虐待のない事業所として職員が意識して行動できるよう、勉強会やミーティングを行っている。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 機会のあるごとに職員へ説明を行なっている。家族の相談に対応することもある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の際には事前にわかりやすくまとめた資料に目を通してもらい説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族との手紙、電話、面会などの折に気軽に話してもらえる関係作りに努めている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度、全体会議があり、施設の代表者や管理者が揃っている場で意見交換ができる。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格取得のための便宜が図られ、取得後は資格給もつくようになっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員全員に声をかける勉強会、各ユニットから1人ずつ参加の研修会や講習会の参加など管理者が勧めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他施設との新聞の交換や施設体験研修、勉強会の誘いあいなどを通じ職員間の交流をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前の面談で生活状態を把握し本人の求めていることや不安、苦しみ、困っていることを共有して信頼関係に努めている。又、家族様面会時に話を聞き情報収集にも努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の苦労や今までのサービス利用状況をゆっくりお聞きし、今後の対応に反映させています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人やご家族の思い、状況等確認し話し合いの中で介護計画を作っていくようにしています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共用のスペースで過ごすようにしていただきレクリエーション活動を一緒に行っています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は利用者様の様子をきめ細かく伝え、ご家族は面会時等に職員に様子を聞いています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 季節行事で馴染みの人や場所へ行ったり、また、友人、知人の面会も歓迎しています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共用スペースで利用者様同士が交流している中、いつの間にか仲よくしている場面をよく見かけています。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 施設を変わられた利用者様の面会などには伺っています。ご家族様の相談にも必要があれば対応しています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個別ケアには努めています。困難な場合にはご家族の方と周囲の方々の情報を参考にしています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者様とたくさんのコミュニケーションをとるようにして情報を集めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日頃からの行動や言動の中から現状の把握に努めています。主治医からの情報提供も受けています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議、モニタリング、カンファレンスを行い、本人、家族、関係者からの意見により介護計画を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 週に1回のカンファレンスを行い現状の把握に努め問題点についても早めの対応を心掛けている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 毎月、活動計画を作成し月1度の外出、季節に応じた行事等を行っている。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的に運営推進会議を行うことで民生委員や区長、ご家族の方を交えて現況の報告や意見交換をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望するかかりつけ医に定期的に往診に来ていただいております。急変時にも対応して頂けるような体制が出来ています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者様に変化が見られる場合や職員の不安等を看護職に相談できる体制が整っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された利用者様の見舞いをおねがひして病院関係者との連携を深め、退院時には直接連絡やサマリー等を通じてADLに即した対応をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | かかりつけ医の意見を交えてご家族様との話し合いの場を持ちご理解いただいている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に勉強会やミーティングなどで周知徹底を図っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て入居者と避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行なっている。地域の協力体制については運営推進会議を通して協力を呼びかけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 清掃等で入室する時は目的を告げてから入室しています。また排泄の失敗時には他の人に気づかれないような気配りをしています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の希望を聞き、出来ることは行なうように支援し、無理な時は出来るだけ話を聞いたり気分転換をするように工夫している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調や希望を踏まえて支援しています。睡眠がとれていない時はゆっくり休んでもらっています。又消灯時間にこだわらず好きな番組がある時はゆっくり見て過ごしてもらっています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣替えの時などは衣服の入れ替えを利用者様と一緒にしたりまた、不足の時は買い物時に利用者様自身で選んでもらったりしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 盛り付けや配膳、下膳、食器洗いなどは利用者様と一緒にしています。湯呑、茶碗、箸は個人持ち込みです。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日、食事量、水分量を記録しており、また管理栄養士のもとで利用者様に合わせたメニューとなっています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨きの声かけを行い、利用者様によっては職員が見守ったり介助を行っています。義歯は毎週月曜日に洗浄液に浸けています。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレで排泄できる人に対しては誘導している。声かけで排泄の有無を確認して誘導し、排泄チェック表を活用している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 管理栄養士による食材の工夫、水分補給運動、入浴時の腹部マッサージなどで便秘対策をしている。排泄状況は排泄チェック表で確認をとる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は利用者様の希望を聞いて実施している。肌の状態では必要性を説明して毎日入浴してもらうこともある。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中はできるだけ活動に参加してもらっているが無理強いはいらない。天気の良い日の布団干し、昼寝など職員も一緒に楽しんでいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 与薬箱に一人一人薬を1週間分セットし、正確な服薬を支援している。また、薬の変更はDr情報から全ての職員に知らされ変化の情報は集約してDrに報告されるようになっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中でその人にできることは何か、役割づくりはケアプランを立案する時、必ず話し合われるテーマになっています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 個人からの外出の要望はほとんど聞かれませんが毎月計画を立てている活動計画で戸外に出かけられるよう支援しています。直近では盆踊りに参加しました。 | | |

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小口現金として施設管理しており、必要な物や希望の物は家族と相談して購入しています。また、週1回の買い物で利用者様と一緒にお店に出かけて支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族様から贈り物が届いた時の返事や電話があった時は電話口に出てもらっています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとに壁の装飾を工夫し課題を取り上げて変化を感じてもらっています。戸の開閉の音の響くドアの淵にタオルを挟んだりして工夫をしています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食卓の位置はほぼ固定していますが希望や移動するときのことを配慮し変更してもらったりしています。いつのまにか、話に花が咲いていることがよくみられます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 音楽を聴くことが好きな利用者様のご家族よりラジオを持ってきたいと要望があり持ち込んでもらっています。また、外出時の写真を飾ったり愛用の小物など、本人の思いを重視しています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日常生活の中でその人々にできることは何か、役割づくりはケアプランを立案する時、必ず話し合われるテーマになっています。 | | |